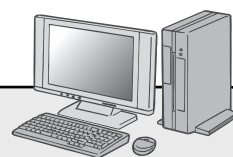


# すべての市民が夢と希望を持てる 「五つ星の出雲市」の 実現をめざして



市長施政方針の全文は、  
市ホームページに掲載しています。

<http://www.city.izumo.shimane.jp/>

本年10月1日には、斐川町との合併により新しい出雲市が誕生します。

新市は、豊かな出雲平野が広がる農業生産力の高い地域であり、工業は山陰最大の拠点、さらに商業集積も進んでいます。また、山陰有数の医療福祉拠点でもあります。出雲縁結び空港、河下港、山陰自動車道など、陸・海・空の交通拠点を備えるとともに、出雲大社、荒神谷遺跡などの歴史・文化遺産、日本海、宍道湖、斐伊川などの豊かな自然にも恵まれております。

このように高い発展性を備えた新市が誕生する新年度は、市長という重責を担わせていただくこととなって、ちょうど1期4年の折り返しの年となります。これまで取り組んできた、透明で公正な市政運営と将来にわたって持続可能な地域づくりを一層進めるとともに、そうした基盤の上に立って、全国に誇れる都市、子どもたちや若者をはじめ、すべての市民が夢と希望を持てる「五つ星の出雲市」の実現に向けて大きく躍進する年としたいと考えております。

私が市長就任以来提唱してきました「出雲の真のブランド化」につきましては、昨年6月に「出雲ブランド化推進市民委員会」が発足し、具体的な取組みの検討を重ねていただいております。昨年12月には、公募によって

「大好き☆出雲！」の4つの文字デザインを決定したところです。この文字デザインを活用しながら、新年度は、さまざまな試みや実践を通して、市民の皆様や地域の参画を得て、息の長い取組みとして大きな広がりとなることを期待するものであります。

昨年12月に発表された国勢調査の速報値によれば、平成22年10月1日における本市の人口は143,828人であり、平成17年調査と比べて2,479人の減少となり、人口減少、少子高齢化が進行しております。そうした中で、若い人が安心して働き、結婚し、子どもを産み育てる環境づくりは喫緊の課題であり、雇用の場の確保を含めた産業振興に積極的に取り組んでまいります。

以上、申し述べましたように、合併による効果が最大限発揮できるよう、市民の皆様の方と地域の資源を結集し、活力あふれる豊かな出雲市の実現に邁進してまいりたいと考えております。

2月21日、出雲市議会定例会が開会し、その冒頭で、長岡市長が平成23年度施政方針を述べました。

以下、施政方針の主な内容について、斐川町との合併後を見通しながら、3つの主要なポイントとブランドデザインの6つの基本方針に沿って紹介します。

## 《3つの主要なポイント》

### ① 開かれた市政の実現を めざした住民参加型 システムの構築

○市民が主役のまちづくりを実現するため、市政運営の基本理念や原則を定めた**自治基本条例**の制定に向け、昨年設置した「市民懇話会」での検討を踏まえ、広く市民の皆さんからの意見を取り入れながら条例化を進めていきます。

○「市長ポスト」や「市長面会日」などを引き続き活用していくとともに、さまざまな機会での市民の皆さんから提案・意見を伺っていきます。

○監査機能の専門性を強化するため、本年4月から**外部監査制度**を導入します。監査委員と連携しつつ、外部の目から市の事務執行をより深くチェックすることにより、監査機能の一層

の充実を図っていきます。  
○**財政状況のわかりやすい公表**など、徹底した情報公開・情報開示に努めていきます。

### ② 財政の健全化

○昨年11月には、「出雲市財政スリム化宣言」を行ったところですが、起債残高が若干の減少に転じたものの依然として高い水準にあり、公債費の負担、また、扶助費等の社会保障費の伸びが財政への負担となっており、合併後、早期に**中期財政計画**を策定し、計画的な財政運営をしていきます。

○多くの公共施設について、将来の維持管理や修繕など、経常的経費としての負担の増大が見込まれることから、**公共施設の老朽化等に伴う再配置計画**について、将来を見据えた検討に着手していきます。

○第2期行財政改革実施計画に基づき、行財政改革に積極的に取り組んでいきます。また、各事業について、ゼロベースで見直しを図る取組みを継続するとともに、新年度は、事業の選定の段階から市民の参画を得ながら、**ゼロベース評価委員会**を実施していきます。

### ③ 産業の振興

○国における経済対策に対応して、**経済・雇用対策**を積極的に行っていきます。

○合併後の産業集積を生かして、農工商連携や産学官連携、企業間のビジネスマッチングなどを積極的に支援するとともに、新たな取組みとして、成長著しい**東アジアに向けたマーケティング**にも取り組んでいきます。

○経済・産業、交通の拠点や観光資源が集積している**宍道湖・中海圏域の各都市との連携**を図り、大きなスケールでの情報

発信をめざしていきます。

○平成24年の古事記編纂1300年や平成25年の出雲大社正遷宮に向け、合併によって一層集積する**観光資源を生かした魅力の向上**に取り組むとともに、圏域の観光拠点としての**大社門前町の整備や賑わい創出**など、出雲大社遷宮後も見据え、観光振興に計画的に取り組んでいきます。

○**農業者戸別所得補償制度**の本格スタートに向け、混乱なく新制度へ移行できるよう、JAなど関係機関と連携を密にして農家への迅速かつ適切な情報提供と指導に取り組んでいきます。

○若者たちがふるさとを離れることなく、学び、働ける環境づくりの一つの方策として、**専門学校や各種学校等の誘致**に引き続き取り組んでいきます。このうち、看護系専門学校の誘致については、早期開設に向け、支援策などを検討しながら取り組んでいきます。